

真言

発行 宗教法人大楽院

(真言宗豊山派)

代表役員 酒主 秀寛

三祖宝号(宗祖、中興祖、派祖)

「南無大師遍照金剛」

「南無興教大師」

「南無専誉僧正」をお唱えしましょう

墓参後は本堂でご本尊様にお手を合わせましょう

元朝護摩祈禱会

一月一日午前八時、護摩堂において年頭恒例の元朝護摩祈禱会を厳修いたしました。

凛と澄みわたる新春の空気のなか、御本尊不動明王のたいなる加護を仰ぎつつ、新しき一年の安寧、檀信徒各家の内安全・身体健全・心願成就、さらには地域社会の平穩無事を、心を一つにして祈念申し上げました。

内陣の中央に護摩壇を整え、香や花をお供えして仏さまをお迎えしました。真言が堂内に響く中で、護摩木を一本ずつ火にくべていくと、清らかな炎が勢いよく立ち上がり、その光が堂内を明るく照らしました。

ご参列の皆さまも一心に合掌し、それぞれの願いを炎に託されました。護摩の火は私たちの内なる煩惱や迷いを焼き尽くす智慧の象徴であり、立ちのぼる煙はその祈りを天へと届けるものと伝えられております。

ご参会賜りました皆さまに、衷心より感謝申し上げます。

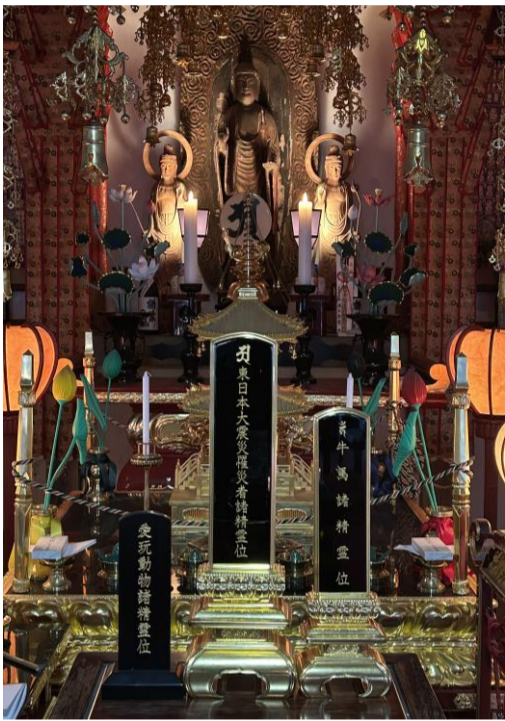


東日本大震災慰霊法要

三月十一日午後二時半より、支所慰霊堂「慈眼院」にて支所主催の慰霊法要が執り行われました。

震災発生の午後二時四十六分に心を合わせ、東日本大震災罹災者位牌及び堂内に納められた支所下各寺院の過去帳の前にて読経し、焼香を捧げました。

歳月が流れても、あの日の記憶を忘れないために毎年同じ日、同じ時刻に法要を重ねております。静寂に響く経の響きとともに、追悼の想いを深く胸に刻む時間となりました。



また、当山の朝の勤行では、震災で亡くなられた方々、そして共に生きた牛馬やペットたちの位牌も安置し、すべての「いのち」の尊厳に思いを寄せて祈りを捧げました。未曾有の災禍で失われた尊い命が、どうか安らかでありますように…これからも祈りを絶やすことなく、いのちの重さと「共に生きる心」を、大切に守り伝えていきたいと思っております。

大和國長谷寺開山千三百年記念本山団参

令和八年十一月に実施予定です。参加希望の方は住職、寺族に申し込みをお願いします

観音堂祈禱会

三月十五日、井出字西原に所在する観音堂において、祈禱会を営みましました。

当堂は、古くより近隣住民の信仰を集める祈りの場として親しまれてまいりました。とりわけ馬頭観音をお祀りしていることから、牛馬の守護神としても篤く信仰され、農耕・運搬に従事する人々の地域の暮らしとともに歩んできた歴史を有しております。

人とともに歩み、人の営みを支えてきた命にあらためて思いを寄せ、感謝の誠を捧げました。併せて、願主各位の家の安全、事業繁栄、家畜菩薩の慈悲の光明に包まれますことを願い、法楽を捧げました。

自然とともに生きる営みの中で、命のつながりを見つめ直す尊いひとときとなりました。



大般若経六百巻転読会

彼岸の中日にあたる三月二十日、当山恒例の大般若経六百巻転読会を厳修いたしました。

大般若経は、さまざまな災いを取り除き、幸せや恵みを増やし、願いごとが無事になうご利益があると伝えられています。

当日は十五名の皆さまにご来山いただき、ともに一巻一巻を手に取り、力強く経題を唱えつつ転読いたしました。経巻を繰る音が堂内に重なり合い、智慧の光が満ちるひとときとなりました。

春彼岸のご縁に、仏法と深く結ばれた尊い法会となりました。



令和八年度分 護寺費・施餓鬼(お盆) 塔婆供養料の納入をお願いします

護寺費は一家 二千元/年 施餓鬼(お盆) 塔婆料は一枚 五千元となります。これらは、宗派・支所賦課金、本堂消耗品、手水場の水道料等に充当しております。ご理解の上、期限までにお納めください。

医王山興福寺大楽院 役員一覧

代表役員・住職 酒主 秀寛

責任役員 草野 公雄

同 鈴木 恒男

同 猪狩 正久

同 渡辺 好男

同 高野 幹生

同 草野 仁

同 橋本 明

同 草野 武夫

同 小松 岳生

同 小野 治久

同 新妻 孝

同 猪狩 芳樹

同 新妻 則彦

同 渡邊 幸生

同 猪狩 義栄

同 関谷 宗久

同 草野 和治

同 猪狩 三男

同 久保田 明

同 渡邊 良平

同 渡部 昇

同 草野 朋典

同 小松 正樹

同 佐藤 学

同 芦口 純一

同 松本 公一

信徒総代

(敬称略・令和八年五月一日現在)

くおそなえありがとうございます

お正月やお彼岸をはじめ、折々に檀信徒の皆さまよりあたたかいお供えをお寄せいただき、誠にありがとうございます。

年中行事を守るための大切な財源として活用させていただきます。

なお、ご芳名は本堂内に記しております。 合掌

水子地藏尊供養会

十一月二十三日、当山年中行事である水子地藏尊供養会をおつとめいたしました。

お地藏さまは、かけがえのない小さないのちをやさしく抱きとめ、導いてくださる仏さまです。

祈りの場が、あたたかな安らぎへとつながることを願いながら、施主各位とともに「般若心経」と「地藏菩薩ご真言」をお唱えし、心を尽くして供養いたしました。

なお、お供えいただきましたお菓子などは、「おてらおやつクラブ」の活動を通じ、支援を必要とされるご家庭へとお届けいたしました。

皆さまのご厚意が、さらに多くの笑顔へと広がっております。



令和 8 年 (2026) は、大和長谷寺開山 1300 年
令和 10 年 (2028) は、派祖尊普僧正御生誕 500 年
令和 16 年 (2034) は、弘法大師 1200 年御遠忌です

～弘法大師 1200 年御遠忌基金積立事業報告～

(令和 8 年 3 月末日現在)

積立口数 307 口 (1 口 5,000 円)
積立金額 1,535,000 円
通帳残高 1,954,544 円 (預金利子等含む)
寄進者数 32 名

本事業にご理解を賜り、ご寄進くださいました皆さまに心より御礼申し上げます。

基金事業は 10 年間にわたりますので、大切に積み立てております。

なお、ご寄進は随時承っておりますので、お志のある方はお声がけいただけましたら幸いに存じます。

お悔やみ

総代 箱崎 豊様

四月十一日逝去されました

長きにわたり総代として住職をお支えくださいました 生前の当山への多大なご尽力に心より感謝いたします 合掌

町指定立石不動尊堂で算額調査

このたび、早稲田大学高等研究所による標記調査が実施されました。算額とは、和算の問題を解き得たことへの感謝を神仏に捧げ、さらなる学徳成就を祈念して社寺に奉納された額のことをいいます。

とりわけ江戸時代から明治時代にかけて全国的に広まり、幾何学的図形や高度な数学問題が色鮮やかに記された木額が数多く残されました。現存数は福島県が最も多いとされ、地域文化としても高い評価を受けています。

立石不動尊堂に伝わる算額もその貴重な一例であり、地域における学問信仰の歴史を今に伝える文化遺産といえます。今回の専門的見地からの調査により、数学的内容などが明らかになることが期待されることから、詳細な調査結果の報告が待たれるところであります。



「堂内に存する算額」

ご報告

本山より大和國長谷寺開山千三百年五重宝塔修復事業寄進に対する「ご挨拶」がありましたので、以下記します。(抜粋)

この度は大和國長谷寺開山千三百年記念五重宝塔修復事業にご協力を賜りまして、誠に有難く厚くお礼申し上げます。

お力添えをいただきました大楽院様とのご縁に感謝し、今後も長谷寺の護守交流と大和國長谷寺開山千三百年記念事業の完遂に努めてまいります所存でございます。

なお、この機会に一人でも多くの方が観音様とご縁を深められ、数多の功德を頂戴なされますようお知り合いの皆様にお伝えくだされば幸甚でございます。 合掌

総本山長谷寺 大楽院総代会 檀信徒御一同 様

令和八年 年回表

一周忌 令和七年
三回忌 令和六年
七回忌 令和二年
十三回忌 平成二十六年
十七回忌 平成二十二年
二十三回忌 平成十六年
二十七回忌 平成十二年
三十三回忌 平成六年
三十七回忌 平成二年
四十三回忌 昭和五十九年
四十七回忌 昭和五十五年
五十回忌 昭和五十一年
百回忌 昭和二年

追善供養は毎年行うのが本義です。ここには代表的な年回を掲載しました。供養の在り方について不明な点はご相談ください。

住職動静 (令和七年十月以降)

十一月十三日 仏教青年会全国結集福島大会慰霊法要

十一月十七日 支所役員会

十一月十八日 東北北海道宗務支所連絡協議会総会・研修会

十一月十九日 豊山教養講座

十一月二十三日 水子地藏尊供養会

十二月三日 支所陀羅尼会

十二月六日 総本山長谷寺参拝 (五重宝塔修復事業寄進奉納)

十二月八日 納めの薬師

十二月十六日 豊山教養講座

十二月二十一日 納めの大師

十二月二十八日 納めの不動

一月一日 不動明王元朝護摩祈禱会

一月八日 初薬師

一月九日 福中支所相講習会

一月十六日 支所教師研修会

一月十七日 地酒と大鍋料理を楽しむ焚き火の夜協力 (住職トーク)

一月十九日～二十日 宗立事相講習所

一月二十一日 初大師

一月二十一日 豊山教養講座

一月二十六日 支所新年会

二月二日 県真言教師協議会総会・講習会

二月十日 立石不動尊堂算額調査

二月十三日 福一支所相講習会

三月十一日 東日本大震災罹災者慰霊法要 (朝勤行時)

三月十四日 支所慰霊法要

三月十四日 安養寺副住職結婚式

三月十五日 観音堂祈禱会

三月二十日 春彼岸会

三月二十日 大般若経六百巻転読会

四月五日 支所重役御巡錫

四月十二日 支所監査会

四月十四日 田代興弘猊下宗葬式

四月十六日 檀信徒研修会

四月三十日～五月二日 総本山長谷寺社

丹期布教

真言宗豊山派医王山興福寺大楽院

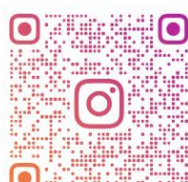
法務等のご相談は、下記までお願いいたします

〒979-0603 福島県双葉郡檜葉町大字井出字谷地 6 5

電話 0240-25-2434

FAX 0240-25-4808

お寺の最新情報は、SNS
で発信しております



DAIRAKU.IN

今号は、行事のご報告が多くなりました。あらためて振り返りますと、一年の歩みは、祈りの積み重ねであることを実感いたします。寒風の中お参りくださったお姿、静かに手を合わせられる後ろ姿。その一つひとつが、当山の力となり、次の折りへとつながっているように思われます。行事は記録として残りますが、本当に尊いのは、その場に込められた皆さまのお心なのだろうと思います。読経の声を合わせる、手を合わせるひととき、その時間こそが何より大切なかもしれません。あらためて、深く感謝申し上げます。これからも皆さまとともに、祈りの灯を大切に守ってまいります。合掌。